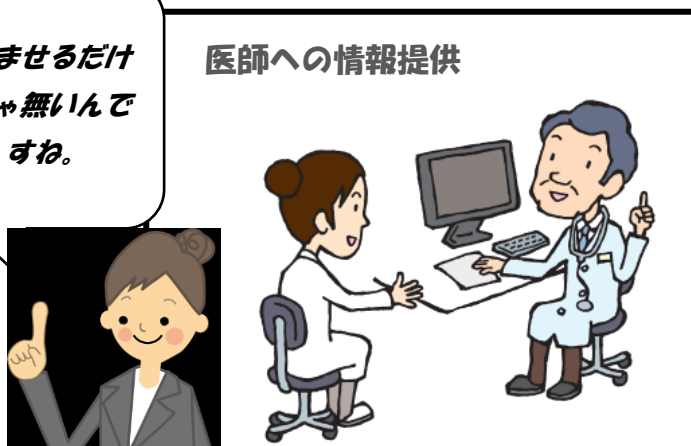
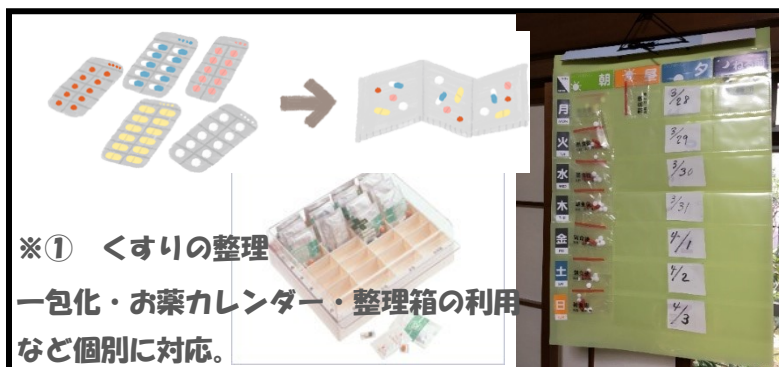
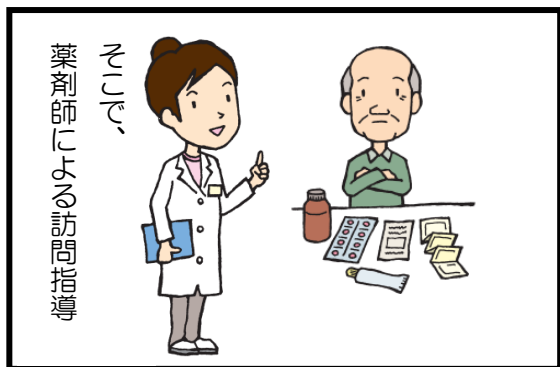
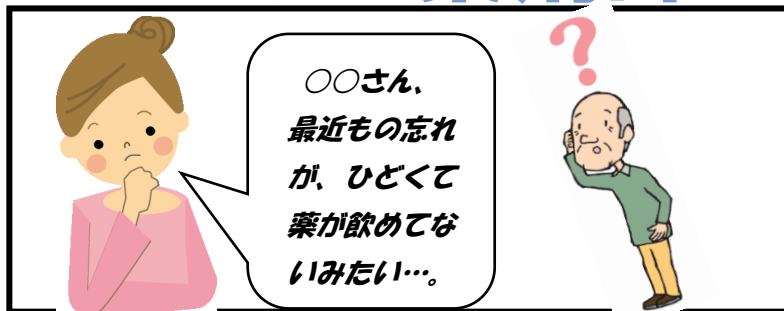


# マンガ 薬剤師による訪問管理



※①～④の解説は裏面をご覧ください

# マンガに学ぶ、薬剤師の活用（薬剤師からのメッセージ）

## ①くすりの整理

患者さんが、くすりを飲めない原因は、千差万別。安易に一包化するだけでは、飲めない場合もあります。患者さんの個別の原因に対して解決策を考えます。そのくすりの説明をしてしっかり理解してもらえば、飲んでもらえることもあります。飲んでいて不具合があり、飲むのを嫌がっている場合もあります。場合によると一包化調剤を実施し、お薬カレンダーにセットするだけでしっかり飲めるようになる場合もあります。

## ②くすりが原因の事象

誤嚥の原因となりうる薬剤を考えてみましょう。口渇により食塊形成を妨げる唾液分泌を抑制する副作用のある薬剤、のどの筋肉にも作用する睡眠剤、抗不安薬、肩や腰の痛みで使う筋弛緩剤など、なにが原因になるか分かりません。

他にも、転倒・食欲減退・便秘など、QOLに影響するくすりは、たくさんあります。

## ③くすりを減らす

くすりは、もちろん必要だから出ています。しかし、時として上記のような副作用が起こることもあります。そんな状態を訪問することにより確認します。また、現在は配合剤といって、2種類の成分が1錠に入った薬剤などもありますので、数種類のくすりをまとめることで服用する薬剤数を減らすお手伝いができるかもしれません。

## ④症状を改善する

医師との情報共有をすることによって、居宅での生活状態やライフスタイルなどを共有することで、改善することが出来るかもしれません。診察室だけではわからない情報を医師に適切に伝えることが大切になります。

## ⑤情報の共有がキーワード

些細なことと思っても、それが解決の重要なカギになることもあります。私（薬剤師）自身もケアマネージャーさんからの情報をもとにして居宅訪問し、その情報を併せて医師に伝えたところ、隠されていた疾患を発見でき、薬剤を減量し、新たな疾患の治療を開始することが出来た事例を体験しました。このケースは、ケアマネージャーさんからの

「くすりを決められたとおりに飲めない。飲まない薬と多く飲んでしまう薬がある。」という情報から発見できたケースです。

訪問依頼ではなくても、気軽に相談してください。

(株)熊谷市薬剤師会 会営薬局江南店  
〒 360-0105 熊谷市板井 1690-6  
Tel048-539-4355 Fax048-539-4356